



んだじゅ通信

vol.26

Contents

- ★ 新病院の開院にあたって
- ★ 新任医師紹介
- ★ 総合患者サポートセンターのご紹介
- ★ 緩和ケアについて
- ★ リハビリテーション室からのお知らせ
- 🍁 歯科・精神科・面会窓口のご案内
- 🍁 在宅療養後方支援病院について

山形県立新庄病院 地域医療部

〒996-8585 山形県新庄市金沢720番1号
TEL.0233-22-5525 (代表)
FAX.0233-28-7277 (直通)

令和5年 10月発行



「仁」「愛」「和」の心をもって

新庄病院長 八戸 茂美

秋も深まり日増しに寒さがつのってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

共に戦ってきた三年余に渡る新型コロナの波もようやく沈静化し、我々医療従事者にも通常診療が戻ってきました。

そして令和5年10月1日、念願の新病院が移転開院しました。これは旧病院完成以来50年ぶりの大事業であり、平成27年7月の新庄病院改築整備検討委員会の発足から数えると足掛け9年目にしての住民の悲願結実でもあります。これまで多大なご支援をいただいていた地元市町村や関係団体、そして地域の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

新病院の大きな特徴として「地域救命救急センター」と「総合患者サポートセンター」の設置が挙げられます。地域救命救急センターは患者さんの安心のため、最善の医療を尽くす「仁」と「愛」、総合サポートセンターは地域の医療・保健・福祉の連携の「和」と、いずれも当院の理念を具現化するものであり、最上の地域医療のますますの発展に寄与していくことでしょう。両センターの他にも診療科を新たに7科増やし28科とし、専門的な医師などの配置によりきめ細かな診療が可能となりました。また、最新鋭のCT、MRIなどの医療機器も導入され、迅速で正確な診断や治療に貢献することが期待されます。

その他にもさまざまな機能強化がみられますが、地域連携に関して特筆すべきは地域救命救急センターへの新庄市夜間休日診療所の機能の移転です。引き続き新庄市最上郡医師会会員の先生方に今後の運営にご協力の程お願い申し上げます。

さて10月4日、その夜間診療開始初日は土田会長が先陣を切っ



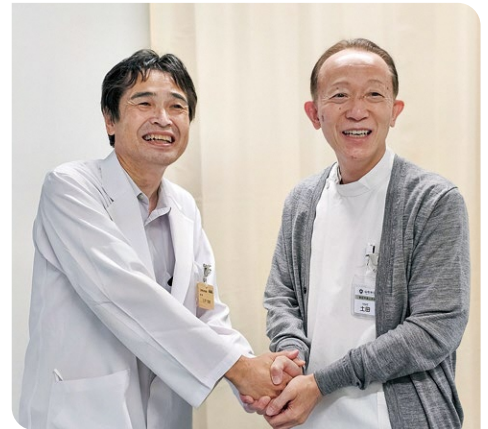


てくださいました。いささか感傷的な話になりますが、土田先生とは、平成元年に私が新庄病院に赴任した時からお互い研修医として苦楽を共にしてきた仲ただけに、時を経た今、この新病院の救命センターでの邂逅には万感の思いがありました。

一方、先々月は、最上町刊行の「広報もがみ」の特集シリーズ最終回として、最上地域の医療について町立最上病院の佐藤院長と対談する機会を与えていただきました。彼とは山形大学医学部第二内科入局以来40年の付き合いになりますから、対談はもっぱら同窓会と化して懐かしいひとときでしたが、対談中、私はテーマとは離れて、よくぞお互い健康でここまでやってこられたものだなあと感慨に浸っていました。

これまで「地域連携」なる言葉を聞くたびに、私にはこのお二方をはじめこれまで最上管内でお世話くださったごく身近な方々の顔が真っ先に浮かんでくるのです。それだけに今あらためて地域医療連携の在り方を問われれば、そこには王道がなく、それは一朝一夕では得られない、長い年月をかけた人情を介した付き合いの中から醸成されてくるものではないか、と実感します。

皆様はいかがでしょう。どうぞこれからも一緒に最上の医療を考えていきましょう。





精神科・心療内科の 外来診療について

当院の精神科・心療内科の診療については、入院患者を対象としていますので、**一般の外来診療は行っておりません。**

歯科の外来診療 について

当院の歯科の診療については、入院患者及び障がい児を対象としていますので、**一般の外来診療は行っておりません。**

・ ご理解・ご協力をお願いします。 ・

面会再開のお知らせ

10月4日(水) 14:00～

面会時間: 14:00～17:00

病院移転後の面会を再開しました。受付場所など、一部変更もありますのでご確認ください。

※ただし土日、休日はお荷物お届けのみの面会です。

事前予約は不要ですが必ず受付し、シールを貼付してください。

- 平日受付場所: 1階 総合患者サポートセンター
- 土日、休日受付場所: 1階 夜間休日窓口

面会のルール

- 平日は**1組2名**まで、時間は**20分以内**です。
- 土日、休日は**1名10分以内**です。
- ご親族の方、キーパーソンの方に限ります。
- 小学生以下のお子様は面会できません。
- **マスク**を必ず着用してください。
- 有症状の方、感染症との接触歴のある方は、面会をお断りする場合があります。





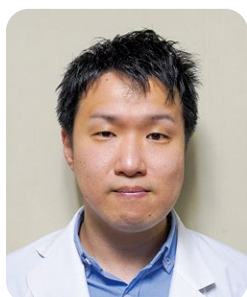
新任医師紹介



医師 永井 貴之 【専門分野】循環器内科

【資格】内科専門医

10月1日付で赴任しました循環器内科の永井と申します。最上地域の医療に貢献できるよう精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



医師 高梨 悠 【専門分野】放射線診断科

【資格】日本医学放射線学会放射線診断専門医・日本医学放射線学会研修指導者

7月より赴任しました高梨と申します。酒田市出身で、山形大学を卒業後は多くを山形市で過ごしました。中間にある新庄は通過することはありましたが勤務するのは初めてです。画像診断で適切な診療のお手伝いができるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



医師 永井美紗子 【専門分野】救急科

【資格】ICLSインストラクター

10月から新庄病院に赴任いたしました救急科の永井と申します。地元である最上地域の医療に携わることができ、嬉しく思っています。救急救命センターの設立にあたり、少しでもお役に立てますと幸いです。よろしくお願い致します。

在宅療養後方支援病院の登録対象患者拡大について

当院は令和4年10月から、「在宅療養後方支援病院」としての取組を行っております。「在宅療養後方支援病院」とは、在宅医療を提供している地域の医療機関(以下「連携医療機関」といいます。)と連携し、訪問診療を受けている患者さんの急変などの緊急時にスムーズに入院を受け入れる体制を整えることで、連携医療機関を支援する役割を担う病院です。当院は現在、最上地域にある4つの医療機関と連携しています。

在宅療養中の患者さんが緊急時に当院への入院を希望する場合、かかりつけの連携医療機関と当院へ、その旨を登録していただきます。登録時に連携医療機関と当院との間で、患者さんの状況について情報共有を行い、また、その後も3か月に1回程度、登録状況に変更がないか継続して情報交換を行います。

以前は、登録対象を、特定の疾病の患者さんに限定していましたが、令和5年9月からは疾病による限定をなくし、登録対象を拡大しました。拡大後の登録対象につきましては、患者さんが受けている在宅医療の算定項目によって判断しております。

当院は、最上地域の在宅療養中の患者さんと在宅医療を提供している医療機関をより一層支援できるよう、引き続き努めてまいります。



総合患者サポートセンターのご紹介

地域医療部長(兼)総合患者サポートセンター長 仁木 敬夫

10月1日に山形県立新庄病院が新病院に移転しました。当院は移転計画で、最上地域唯一の基幹病院として最上管内の医療機関との連携による地域完結型医療の提供と、介護・福祉との連携拠点となることを新病院の果たすべき役割として掲げました。総合患者サポートセンター(以下、患サポ)は、これらの役割を担うために新たに組織されました。患サポは、病院正面入り口から入って正面すぐ右側に受付窓口が設置されており、病院の顔として期待されています。受付窓口の先に、入院時の説明や各種相談を行う面談室が6室あります。



患サポは、これまで旧病院でも行ってきた患者支援の機能に、新たに在宅医療・介護連携拠点(愛称:@(あっと)ほーむもがみ)と最上保健所の一部機能(最上保健所サテライト)が加わったものです。これら3つの柱が連携し、病院、在宅医療・介護と福祉をつなぎ、滞ることのない最上川の流れのように人々にサービスを提供することを目指します。

患サポの1つ目の柱である病院の機能を担当するのは、センター長1名と入院支援担当3名、退院支援4名、がん相談2名、社会福祉士2名、事務担当5名の病院職員です。①入退院支援機能:入院前支援、入院手続き、退院支援など、②相談機能:医療相談、苦情対応、がん相談など、③地域連携機能:患者紹介、逆紹介の円滑化、病診連携の促進、④情報発信:情報誌の発行、健康教室の開催、患者図書室の運営(一般社団法人「とらいあ」に委託)を担当しています。

2つ目の柱の在宅医療・介護連携拠点@ほーむもがみは、最上地域保健医療対策協議会の職員3名(支援相談員2名+事務員1名)が、8市町村、地域包括支援センター及び地域の医療・介護関係者と、円滑で効率的な連携を目指します。在宅医療・介護の情報を集約し、研修会等を通して、これまで個々の現場で抱えていた成功例や失敗例を最上地域全体の経験として共有することで地域の在宅医療・介護のレベルを上げたいと考えています。さらに最上地域保健医療対策協議会のメンバーには、最上管内市町村長もおられるので現場の声が行政に届きやすくなることも期待しています。

3つ目の柱の最上保健所サテライトは、保健所職員1名が、平日は毎日、難病、肝炎等の医療費助成の申請、相談対応や、保健、介護、福祉サービス関係の情報提供等を行います。

以上、患サポの陣容と業務内容を紹介させていただきました。医療、介護、福祉の分野でのマンパワーは、常に不足しています。また、個々の現場の努力だけで問題を解決しても、持続可能な解決策にはつながらないことが多いのではないのでしょうか。皆様の患サポへの期待が大きいのは、このような背景があるからだと思えます。患サポは、限られた資源を有効的、効率的に提供し、用語や表現を標準化し、問題や解決策を共有することを可能にできるはずです。医療・介護・福祉をつなぎ、よどみのない流れを作ることを目指します。さらには、最上地域全体で、生や死、人生会議などについて考える土壌づくりの一助になるはずです。しかし、まだ生まれただばかりの組織ですので、至らぬ点があることはご容赦ください。ご意見を真摯に受け止め、よりよい患サポを目指してまいります。ご支援、ご協力よろしくお願い致します。

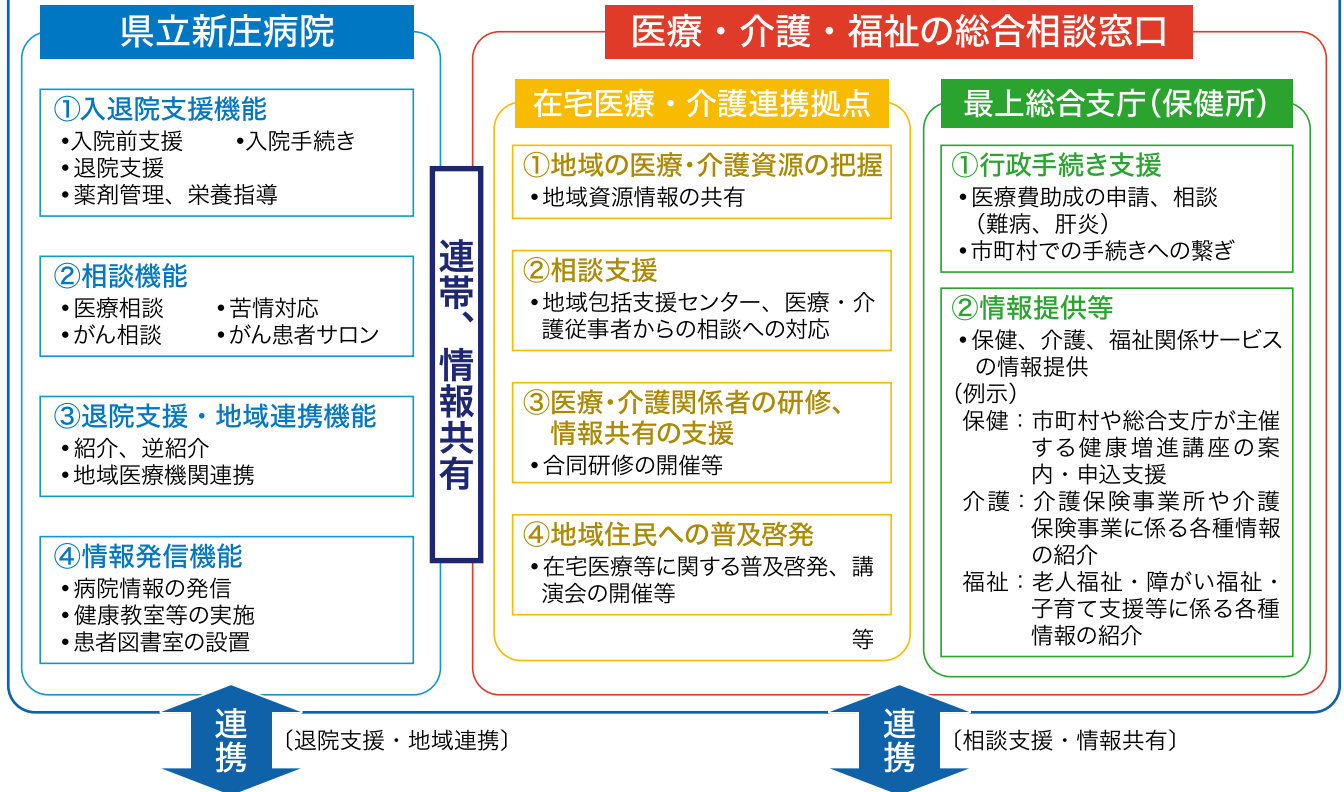




相談窓口のイメージ

設置場所：県立新庄病院総合患者サポートセンター

※新庄病院総合患者サポートセンターに、在宅医療・介護連携拠点、最上総合支庁（保健所機能）を置き、三者が連携、情報共有しながら、それぞれの機能・役割を果たす。



市町村担当課、地域包括支援センター、地域の医療機関、介護サービス事業所、施設等

新庄病院の機能について

入退院支援機能

入院支援:入院される前から入院支援担当の看護師が患者さんやご家族の方から自宅での生活の様子や入院療養中の心配、退院後の生活に対するご希望や不安などをお聞きします。お聞きした内容は退院支援担当と情報共有を行い、入院早期から退院後の生活を見据え、安心して入院生活を送ることができるように支援しています。

退院支援:退院後も住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、退院支援看護師や社会福祉士が患者さんやご家族への支援を行います。入院支援担当と情報共有を行い、入院早期から関わることで、患者さんやご家族の意向を尊重しながら、必要に応じて医師やその他の院内関係部門や地域の関係機関と連携をしています。随時相談やカンファレンス等を実施しておりますので、お困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。

相談機能

がん相談支援センター：患者さんだけでなく、ご家族や当院で治療を受けていない方など、どなたでも無料・匿名で、対面・電話で相談することができます。また病気に関するパンフレットは患者図書室に設置しています。患者サロン『晴れ晴れ』の開催を始めました。まだ不定期的な開催ですが、ポスター



やホームページ等でお知らせします。同じ立場の方々
といるるなことを気軽に語り合えるサロンとなっ
ています。

地域連携機能

今年6月に第9回医療連携懇談会を開催しました。
3年ぶりの開催となりましたが、医療連携の一層の
強化と地域医療サービスの質の向上を図るため、多
くの地域の先生方に参加いただきました。

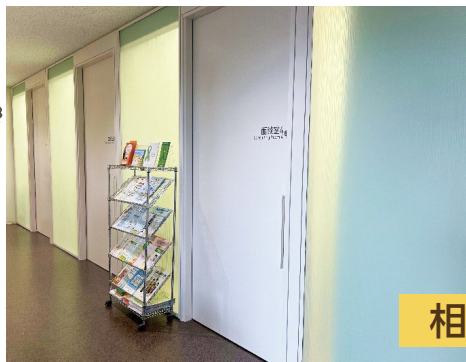


情報発信機能

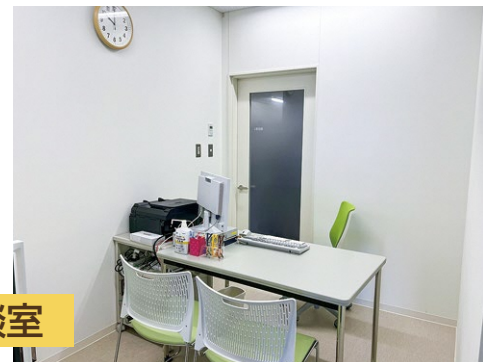
新たに患者図書室が設置となりました。医療・健康
・保健・介護・福祉などの資料を所蔵しています。
また、閲覧室のパソコンを利用し、医療情報と地域
情報の閲覧も可能になっています。医療関係書のほ
かに、小説や児童書、絵本、マンガなどの一般書も所
蔵しています。病気や健康、治療に積極的に向き合
える手助けとなればと思います。



総合患者サポート
センター
スタッフ一同です



相談室

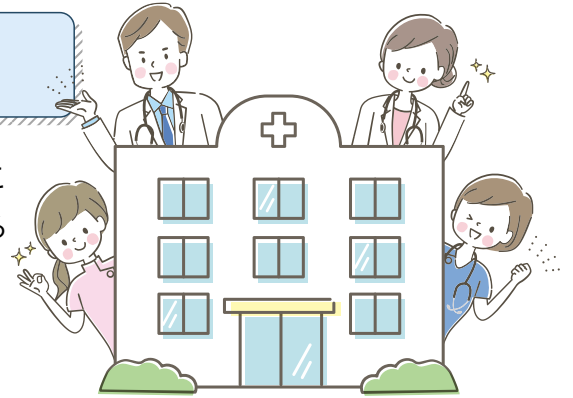


よろしくお願いします！



緩和ケアについて

当院では、がんなどの治療のあらゆる場面における『体とこころのつらさ』を軽減し、より豊かに自分らしい生活ができるように、院内の医療者が協働し緩和ケアを提供しています。



【緩和ケアチーム】

緩和ケアに携わる医師、薬剤師、リハビリ、看護師などがチームとなって、苦痛症状への専門的な対処や、気持ちのつらさを和らげるケアについて、コンサルテーション活動を行っています。

現在の治療や生活が上手くいくように、多職種と協働し、お手伝いをしていく医療チームです。

【緩和ケア外来】

緩和ケア担当の医師が診療にあたり、各診療科の主治医や、かかりつけ医、在宅往診医と相談し、つらさを和らげる緩和医療を提供します。隔週で緩和医療専門医による診療もあります。

緩和ケアチームの薬剤師や看護師も診療に携わり、必要に応じて地域の医療、介護スタッフと連携し、より過ごしやすい生活ができるよう、サポートさせていただきます。

■時間:毎週火曜日 午前9時00時～11時30分 **〈完全予約制〉**

■場所:Bブロック 緩和ケア内科外来

■担当医師:緩和医療担当医師及び緩和医療専門医(隔週)

■対象の患者さま

がんなどの疾患に伴い、体やこころなどのつらい症状でお悩みの方

- 体の痛みやだるさ、吐き気などがあり、つらい日々を過ごしている
- 痛みや不安があり眠れない日々が続いている
- 治療を受けながら在宅で過ごしたいが、どうしたら良いか不安がある…など

■外来予約・受診の方法

《当院で診療を受けられている方》

- 各診療科の主治医より緩和医療専門医へ紹介となり受診予約の手続きが行われます。

《当院以外の医療機関で診療を受けられている方》

- かかりつけ医師より緩和医療専門医へ紹介、FAXにて、お申し込み頂きます。





【緩和ケア病床】

緩和ケア病床は、3階東病棟の地域包括ケア病棟内に4床あります。地域包括ケアシステムを最上地域で実践する一助として、がんなどの診断時、治療中、積極的な治療を行っていない等、治療の時期に関係なく、生活に支障をきたしている苦痛症状を早期に緩和し、本人が望まれる地域の療養場所で、できるだけ長く、その人らしく生活できるように、地域連携し退院支援を行う病床です。

緩和ケア病床をご利用いただく際は、患者さま、または、ご家族が病状の告知を受け現状を理解されていることを要件としています(本人がご理解されていることが非常に望ましい)。さらに、下記の内容に了承をいただいてからの利用となります。

- 1) 主治医は患者さまの病状に該当する当院の診療科の医師となります。緩和ケア内科の医師は緩和ケアチームの一員として多職種と共に主治医の診療をサポートさせていただきます。
- 2) 治療の時期は問いませんが、身体や精神的苦痛の緩和を優先するため、抗がん剤などの積極的治療は原則として行いません。

※症状が緩和した後、基本的には退院となります。入院を継続し、引き続き積極的な治療をご希望される場合は、一般病棟に転棟して急性期治療を行うこととなります。

※基本的には地域包括ケアシステムのご概念に基づき、看取り目的の病床としての運用予定はありません。

- 3) 退院後の療養生活を見据えて、入院中より必要に応じて地域の医療、福祉、介護スタッフと連携し、患者さま、ご家族についての情報を共有していきます。

退院後も引き続き緩和ケアチームが地域の多職種と連携し、療養中のサポートを行います。

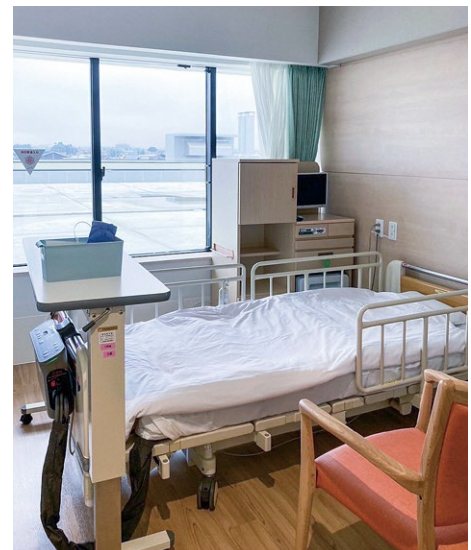
- 4) 緩和ケア病床は完全個室です。個室の差額室料は1日5,500円となります。プライバシーの保たれた個室で、可能な限りご家族や大切な人との時間も過ごしていただき、退院後の自分らしい生活を見据えて在宅等での療養環境を整えるお部屋です。

当院の緩和ケア病床は、院内外の多職種がチームとなり、患者さまやご家族が抱える苦痛を早期に緩和し、その人が望む場所で『よりよく生きる』を支えるための『緩和ケア病床』を目指しています。

当院は地域の皆様との繋がりを大切に『いつでも、どこでも、緩和ケア』の実現に取り組んでいますので、今後どうぞよろしくお願いたします。



3階東病棟



緩和ケア病床(4床)



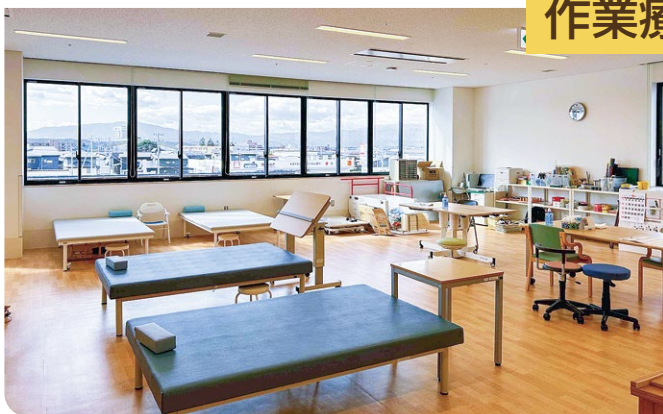
リハビリテーション室からのお知らせ

10月1日の新庄病院移転に伴い、リハビリテーション室も装い新たになりました。

大きなフロアに理学療法室・作業療法室が一体化され、よりチームでの連携がとりやすい空間となっております。また言語聴覚療法室も3部屋あり、個別でのリハビリがしやすい空間となっております。



理学療法室
作業療法室



言語聴覚療法室



小児リハビリが行える部屋もでき、最上地域での質の高いリハビリを提供できるのではないかと考えております。

移転に伴い、私たちリハビリ職員も身体だけでなく心も良くなってもらえるようリハビリが提供できるよう、より一層心掛けて頑張っていきます。そして、次の回復期病院や地域の皆様にうまく繋げていけるよう努力してまいりますので、今後どうぞよろしくお願ひします。



小児リハビリ室

